



2026年2月13日(金)開催  
特許調査セミナー

# 先行技術調査コース 事前課題

本編受講までにご検討ください

# 事前課題1

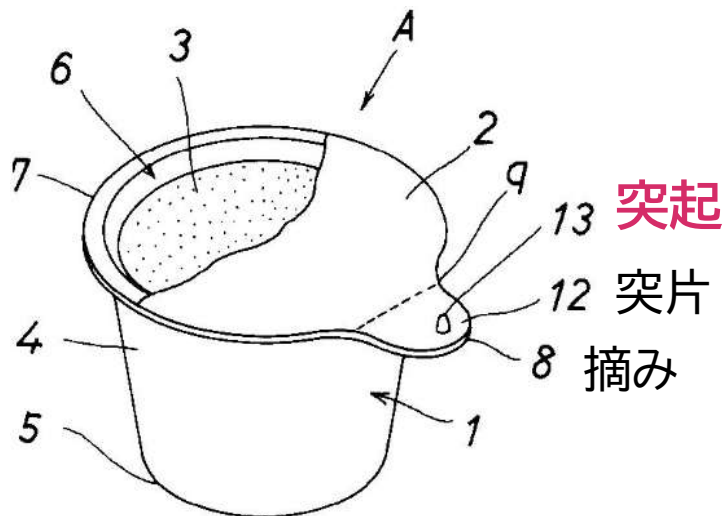
- ・ 下記公報を題材とします
- ・ 課題は次ページに記載

特開平10-236532 【請求項1】

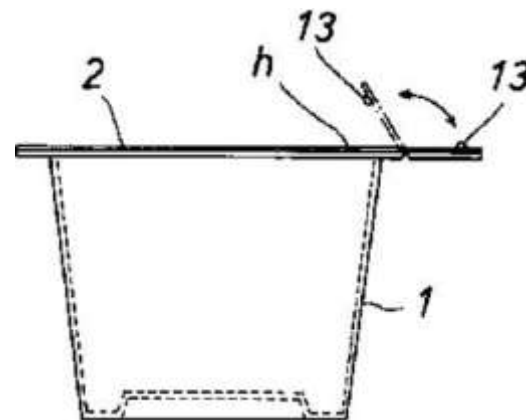
容器本体の上面開口部を上蓋で密封し、その上蓋の一部に剥離用の突片を設けたプラスチック容器において、

前記上蓋の突片の表面側に突起を設け、その突片を折り曲げて前記容器本体の上面開口部上で前記突起により上蓋に穿孔を施せるようにしたことを特徴とするプラスチック容器

【图1】



【図4】



### 事前課題1

- 公開特許公報：特開平10-236532  
を読み、請求項1について 以下3ページの太枠内を埋めてください。

(所要時間目安15分)

業務効率も重要！

- 参考：発明のポイントを把握する際に重要なこと
  - 従来技術としてどのようなものがあったか、問題点・課題は何か
  - 従来技術の課題を解決する手段は何か
  - 請求項の構成要件と実施例記載箇所に対応付け

- 従来技術とその問題点

特開平10-236532

従来技術としてどのようなものがあったか

従来技術の課題・問題点は何か

- 課題解決手段

特開平10-236532

課題を解決するための手段は何か

- 本発明のポイントの要約

本発明のポイントをなるべく簡潔に要約してください

### ・ 請求項1の各構成要件と明細書中の記載箇所との対応付け

各構成要件に該当する技術内容が【発明の実施の形態】のどの段落に記載されているか  
図面中ではどの符号に対応するか

最も明確に記載された箇所を答えること

記号	構 成 要 件	記載箇所段落番号	図中の符号
a	容器本体の上面開口部を上蓋で密封し、		
b	その上蓋の一部に剥離用の突片を設けた(プラスチック)容器において		
c	前記上蓋の突片の表面側に突起を設け、		
d	突片を折り曲げて容器本体の上面開口部上で前記突起により上蓋に穿孔を施せるようにした		
e	プラスチック容器		

・ 発明のポイントを表わす構成要件

a   b   c   d   e

(該当要件に○)

・ 従来技術にも備わっている構成要件

a   b   c   d   e

(該当要件に○)

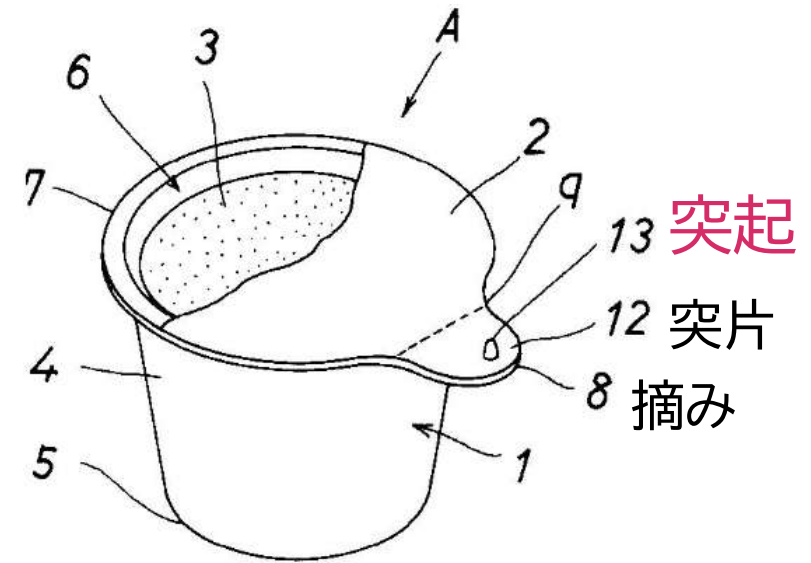
知識や常識から判断せず、本明細書に記載された内容から判断して答えること

### 事前課題2

- 下記前提で先行技術調査を行うものとします
- 課題は次ページに記載

#### 前提

- 特開平10-236532の発明を今行なったものと想定
- 請求項1について先行技術調査を行なう
- 先行技術調査に用いるべき分類を特定したい



### 事前課題2

- 特開平10-236532に記載の技術を今発明したものとして先行技術調査を行なう場合に、用いるべきFIとFタームを特定してください。

他の課題を優先 / この課題は時間があれば検討してみてください

FI	Fターム	
	テーマコード	タームコード



# 演習課題(スクリーニング・対比表作成)

## 課題3

### 事前課題3

- 次ページ記載の調査対象発明について、下記公報の中から新規性を否定する文献を選択してください。
- さらに、調査対象発明の構成要件が、選択した文献のどこに記載されているかを特定し、次々ページの対比表を完成させてください。

文献No.	公報番号
1.	特開2017-077475
2.	特開2016-078941
3.	WO2014/123140
4.	特開平08-217114
5.	特開2003-033422
6.	特開2004-089609

所要時間目安：  
要件対比を含めて20分

業務効率も重要！

# 演習課題(スクリーニング・対比表作成)

## 課題3

### 調査対象発明

- 発明の名称：点眼薬容器

- 請求項1：

薬液を収容する容器本体と、

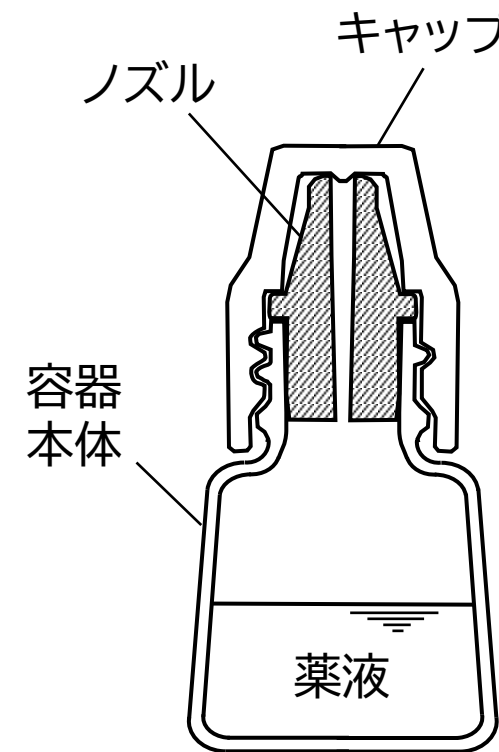
前記容器本体の口部に装着され薬液を滴下するためのノズルと、

前記口部に着脱可能に設けられ 前記ノズルを開閉するためのキャップとを具備した点眼薬容器において、

前記ノズルを着色材料で形成し、

前記キャップを透明な樹脂で形成したことを特徴とする

点眼薬容器



【目的】 キャップを装着した状態においても薬液の種類を判別可能にする。

【解決手段】 ノズルの色を薬液の種類に応じて変えるとともに、キャップを透明にする。

## 課題3

11

# Thank you.

本編もよろしく  
お願いいたします

無断転載および複製を禁じます。  
著作権は株式会社RWSグループに帰属します。

特許調査セミナー 先行技術調査コース  
事前課題 2026年1-2月